

修猷館高校

KOJO
HAYATO

1998年5月22日生
草ヶ江ヤングラガース出身

SO 古城隼人



およそ3年前、福岡でラグビーをする中学生なら誰もが立たされる岐路に立っていた。

「日本一を目指して東福岡を受験するか、修猷館を受験するか」

葛藤を繰り返したが、結局兄の姿を追って修猷館を受験。入学後は打倒東福岡を掲げ、先輩たちの汗と涙が詰まった土のグラウンドで楕円球を追い続けた。ラグビーと勉強の両立が簡単でないことは予想していた。しかし、このグラウンドに立つ者はその壁にブチ当たることさえも楽しむという“使命”がある。それが修猷館ラグビー部の誇りだ。草ヶ江ヤングラガースでラグビーを初めて12年。相手のギャップを一瞬で抜き去る天性のスピードを武器に2年生で高校ジャパン候補に選出されるなど、中学生ラグーマンが憧れるプレーヤーの一人となった。

東福岡を破って57年ぶりに 春の福岡県大会を制しました

東福岡に照準を合わせていました。タイトな試合でしたが自分たちの強みをしっかりと出すことができたと思います。東福岡がベストメンバードキでできたことは分かっていたのですが、やはり優勝できたことは素直に嬉しいですね。後半Aチームの選手が投入された時に実は「これはやばいかな」と少し弱気になる自分がいたんです。でも仲間が激しく相手に突き刺さるのを見て「こんな気持ちじゃいけない！」と奮い立ちました。最後はもう精神のぶつかり合いで、スタミナやタックル云々よりもそっちが疲れましたね。

九州大会では 決勝まで進みました

決勝の佐賀工業戦は相手FWの圧力を受けて試合自体を支配されました。ミスが少なく、時間の使い方もうまくいったので中々ペースを握れない部分がありましたね。少しキックが多かった点は反省しています。他にも、もっとこうした方が良かったとか、こうすれば良かったというのがあるのでそこは改善していきたいです。ただ、福岡県の高校とはまた違ったプレミアスタイルの高校と試合できた経験は大きいですね。新人戦では小倉に負けただけですが、その時の経験が今のFWの強さ



にも繋がっているんで、負けたこと自体は前向きに捉えています。

修猷館の強み

タックル、ディフェンス、エリアマネジメントが今の修猷館の強みです。「最狂」を目指してやっているんです。ディフェンスに関しては自信を持っています。逆に、相手に合わせてしまうところが課題です。プレーの選択だったり柔軟な対応だったり、そのあたりの引き出しを増やしていきたいですね。

僕たちのチームは、それぞれ特徴を持った選手がいるので、そこがうまく連動して機能すれば強豪とも戦えると思います。今は難しいことはしていません。相手にとって修猷館は「やりにくいチーム」と思われているかもしれません。今は基本の部分を極めようとしているんで(笑)。夏には戦術や自

分たちの強みをもっと出せるように、力を入れていくと思います。

福岡の高校ラグビーの特徴

まず基本スキルがしっかりしている。FWとBKが一体となって戦うチームが多いので、連携面も優れていると思います。だから試合が自ずとスビーディーな展開になりがちです。九州大会で感じたことはそれぞれの県によってラックでの間合いとか接点の基準が少し違うと感じました。ただ、BKの展開力では負けていないと思ったので、そこは自信にもなりました。

花園は意識しますか？

やはりこの大会を終えて現実味を帯びてきたというか意識しますよね。佐賀工業に負けたので、リベンジするには全国に行かないといけません。結局

はもう一度東福岡を倒さなければならぬので「打倒ヒガシ！」の気持ちは変わりません。花園への思いは皆高まっていますが、出場するだけではなく全国でも勝ち進むことを目標に練習に取り組みたいと思っています。

高校生最後の夏が大切ですね？

春は良い結果も残せたので、その自信とか強みはチームで共有できていると思うんです。あと大事なのは自分たちの弱みを直視して改善することなので、その辺りのバランスを意識して夏を過ごして秋に備えたいと思っています。夏は運動会の練習もあるんです。修猷館の学生として学校行事も頑張るラグビーも受験も全部うまくいくようやっていきたいと思っています。

「具体的なシチュエーションをイメージして、その状況をチーム全員で共有できたらもっといい練習ができる。」まさにスタンドオフらしい発想だと感じた。日々の練習時間は決して長くない。受験に部活、そして修猷館の誇りをもって臨む運動会。時間を上手に使うことで多くのことをやってのけるための術を彼らは知っている。「ベストメンバールならヒガシやる！」大半の人は口にするだろう。秋の大会で修猷館が再び福岡のラグビーファンを驚かせることはできるか？参考書を片手に過ごす暑い夏が始まる。